

◎子宮ノ變位及變形

會員 山田 謙 治 述

不幸ナルカナ婦人何ソ婦人ニハ疾病ノ多キ甚シキヤ、
陰莖ニハ大小ノ差形狀ノ異アルモ爲ニ痛痒ヲ感スルコ
ナシ、子宮、腔ノ大小變位變形ハ甚障害ナキ能ハス而シ

テ陰莖ノ人ニ由テ差異アルコトハ常人ト雖モ己ニ之ヲ知
ル腔及子宮ニ至テハ其甚シキ差異アルニモ係ハラズ醫
師スラ尙且ツ之ニ注意セサルモノ多シ之レヲカ所説敢
テ珍奇ナラサルニモ關セス本題ヲ掲ケテ以テ述フル所
アラントスル所以ナリ

予カ爰ニ述ヘント欲スル處ノモノハ子宮ノ新生物及周
圍疾患ノ爲メ形狀位置ヲ變スルモノニアラスノ子宮自
己ノ變位ナリトス、子宮ニ新生物アレハ其實形ヲ變シ
周圍ニ腫瘍アレハ子宮ヲ壓排スルコト勿論ナリト雖モ是
レ其主病子宮實質ニアラスシテ他ニ存スルモノナレハ
ナリ但シ子宮ノ翻轉及脫出ハ其變化子宮ニ存スレモ論
點稍々異ナルノ廉アルヲ以テ是レ又本題ノ範圍内ニア
ラス

凡テモノ、變位ヲ知ラント欲セハ先ツ其通常狀態ヲ知
ルヲ要ス子宮ニ於テモ亦然リ然リト雖モ子宮ノ通常位

置及形狀ヲ知ルハ容易ナラス如何トナレハ子宮ハ妊娠
 分娩及經時前後ニ變化スルノミナラス身軀ノ位置及直
 腸膀胱ノ虛實ニ從テ又多少ノ差異アルヲ免レス是レ子
 宮ハ骨部ニ依テ固定セラレスシテ只軟組織ニ依テ其位
 置ニ保持セラル、ヲ以テナリ軟組織ノ主ナルモノハ子
 宮ヲ前方ニ固定スル處ノ圓韌帶側方ニ固定スル扁韌帶
 后方ニ固定スル子宮薦骨韌帶ト子宮ヲ架スル會陰諸筋
 及膈ニシテ此諸組織ハ只其運動ノ強劇ナルヲ支フルノ
 ミナルヲ以テ小運動ハ終始子宮ニ止ム時ナシ語ヲ換ヘ
 テ言ヘハ終始ノ運動ハ子宮ノ生理的作用ニシテ其制止
 ハ實ニ病的ナリ

果シテ然ラハ子宮ノ變位變形トハ何ソ子宮一定ノ位置
 ニ固定サレ其位置ヲ變セサルモノナリ故ニ排尿管膀胱
 空虛トナリ子宮前方ニ屈スルモ又膀胱強ク膨脹シ子宮
 ヲ後方ニ屈セシムルモ又脱糞作用ニ由テ強ク下垂スル

「アルモ又交接其他ニ由テ腹内ニ上昇スルモ其原因去
 ルト共ニ其位置ヲ變スルモノハ未ダ病的子宮ト云フハ
 カラス今其種類ヲ列擧スレバ

「一」子宮其實形ヲ變セスシテ只其位置ノミヲ變スル
 モノ

其位置ニ依テ左位右位前位或ハ後位ト稱スルモノニシ
 テ先天性偏側扁韌帶ノ短小ニテ右方或ハ左方ニ偏スル
 モノアリ又後天性ニ子宮周圍炎滲出物ノ壓迫及癥痕收
 縮ノ爲メ側方或ハ後方ニ偏スルモノアレバ爲ニ官能ヲ
 障害スルコト少シ但シ扁韌帶ノ長サノ如キハ左右同長ノ
 モノ少ク又胎便集積シテ胎生ノ後半期間ニ子宮ヲ壓迫
 スル等ノ事アルヲ以テ眞ノ中央ニ位スルハ甚タ稀レニ
 シテ殆ント五十%ノ婦人ニハ偏位ヲ存セリトス之レ
 カ爲メニ一時ハ不妊、分娩障害ノ如キハ其原因因此變位
 ニアリト論スルモノアルニ至レリ

「二」子宮屈曲スルモノ

左或ハ右方ニ屈曲スルハ極メテ稀有ニ屬スト雖モ前方及後方ニ屈スルハ甚タ多クシテ之ヲ前屈又後屈ト稱ス

「三」子宮眞直トナリ屈曲セサルモノ、

子宮若シ炎症ノ爲メ其組織ノ肥厚ヲ來セハ眞直トナル

「恰モ海綿ノ屈曲シタルモノヲ水ニ浸漬スルキハ眞直ニ近ツクト同一理ナリ而シテ子宮ハ其上部乃チ牀ハ下部乃チ頸部ヨリモ重キヲ以テ鉛直位ヲ保持スル能ハス

シテ前後左右ニ傾斜スルニ至ル之ヲ前轉後轉又ハ左轉

右轉ト稱ス此左轉及右轉ハ甚タ稀ナリト雖モ前轉或ハ後轉ハ其數敢テ前後屈ノ數ニ下ラス

「四」子宮捻轉スルモノ、

生理的左側ハ稍方ニ位スレモ病的ニ捻轉スルモノハ

極メテ稀ナリ

「五」子宮上行或ハ下行スルモノ、

上行スルハ只新生物等ノ壓迫ニ由ルノミニシテ蓋シ稀有ノモノナレモ下行スルモノハ乃チ子宮下垂或ハ子宮脱ト稱スルモノニシテ比々多數ニ存ス

以上記述シ來ルモノ、中最も要用ナルモノハ前後ノ屈曲ト前後轉症ナリトス其數ハ左ノ如シ

病名	メドウノンナークロストツバイゲル				醫學科 金澤 病院
	の調	トの調	クの調	の調	
前屈	二〇	三三	七九	一三六	一五九
前轉	一二	一三五	一四	七五	五二
後屈	一八	六七	七〇	一三〇	一三三
後轉	三四	一四	五六	五五	一八八

而シテ此疾病ニ罹ルモノハ實ニ婦人ノ多分ヲ占ムルモノニシテ尿意頻數、便秘、月經時下腹及腰部ノ壓重腎張、鈍痛ハ本病ヲ患フルモノ、主徴ニシテ頭痛、頭重、肩胛部ノ緊張、胃弱、胃瘳、四肢ノ欠冷、麻痺等モ亦本病

ニ罹レル者ニ目障スル處ナリ此ノ如キ症狀ハ數々處女及婦人ニ存スル處ノモノニシテ男子ニハ嘗テ之レナキモノハ實ニ病因子宮ニ存スル實証ニシテ而シテ百方醫療ヲ盡スモ寸効ナキモノニ本病ノ治法ヲ行ヒ頓ニ治癒セシ等ノ實例決シテ擧シトセス

此原因ハ先天性ト後天性ニ分ツヘシト雖モ先天性ニハ只嬰兒子宮カ春情發動期ニ達スルモ發育セスシテ矮小ナルモノヲ前屈ニ見ルノミニシテ其他ノ疾病ハ過半分娩及流産後ノ不攝生ニ原因シ亞テ痲毒ノ傳染、過多及不正位置ノ房事、頑固ノ便秘等ナリ、夫レ子宮ハ膀胱ノ後面ニ附着シ稍々前屈ス膀胱膨脹スルキハ之ヲ後方ニ壓排スルコト常ナレモ矮小ニシテ屈曲部硬固ナルモノハ毫モ運動セスシテ膀胱ハ却テ子宮ノ上方ニ位シテ之ヲ壓下スヘシ此際子宮腔部細長ナルキハ膈管ニ固定サル、ヲ以テ屈曲ハ益々其度ヲ増加スヘシ是所謂先天性前

屈症ニシテ後天性前屈症ニ於テモ其發生ノ理由ハ同一ナリ今子宮頸部ト牀部トノ境界部若シ薦骨子宮韌帶ノ萎縮或ハ其他ノ原因ニ依テ緊着セラレ、キハ休部ハ腸ノ重及腹壓ノ爲ニ下方ニ壓迫セラレ膈部ハ却テ上方ニ壓迫セラレ屈曲ヲ増加スルニ至ル前轉ハ實質ニ炎症アリテ組織肥大シ強硬トナリタル子宮牀ヲ下方ニ壓下スル際ニ發スルモノニシテ特ニ子宮腔部ノ短小ナル者ニ起リ易シ後轉後屈ニ至テハ子宮ヲ固定スル韌帶ノ弛緩スルニアラサルハ發セサルモノニ分婉或ハ流産後子宮ノ複故作用行ハルス圓韌帶及子宮薦骨韌帶弛緩スル際ニ發スルモノニ膨脹シタル膀胱其他ニテ子宮後方ニ壓セラレ又ハ直腸內糞塊集積ニテ腔部前方ニ壓セラレ、キハ子宮其位置ヲ變シ得スシテ後轉症ヲ起シ長ク其位置ニ止ルキハ遂ニ底部ノ重力ヲ支フルモノナク下垂シテ後屈トナルヘシ既ニ後屈ヲ發スルキハ血行障害

ヲ起シ月經過多トナリ容易ニ流出セスシテ腔内ニ滯溜シ益々充進シテ遂ニ「ドーグラス」腔底部ニ達シ該腔ヲ充填スルニ至ルヘシ此際多クハ膈及會陰諸筋ノ弛緩スルニ由テ子宮ハ後屈ヲ發セスシテ後轉ノ儘或ハ後屈ノ弱度ノ状態ヲ以テ下降シ又子宮脫ヲ發スルコトアリ月經過多、月經困難、下腹ノ壓重等アレハ子宮ニ變狀アルナラントノ推測ヲ下シ得ヘシト雖ト果シテ子宮ノ變位又變形ナルカ將タ其種類如何ヲ知ルハ局部内臟ヲ觸診スルノ一法アルノミ此觸診ハ必シモ婦人科的診斷臺ヲ用ユルニ及ハス通常ノ病床ニ仰臥或ハ側臥セシムルモ亦タ其大略ヲ知ルコト難カラス、示指ニ消毒油ヲ塗布シ腔内ニ送入スルトキハ前屈及後屈ニテハ子宮膈部ハ常位ニアカ或ハ稍上方ニ位シ前轉ニテハ膈部後方ニ向ヒ後唇ヲ觸ル、ニハ指頭ハ後上方ニ廻送セサルヘカラス後轉ニ於テハ之ニ反シテ膈部ハ前方ニ向ヒ前唇ヲ

觸ル、ニハ指頭ヲ前上方ニ廻送セサルヘカラス子宮体ヲ觸ル、ニハ他手ヲ以テ腹部ヨリ反壓ヲ加フルコト必要ニシテ前屈ニテハ体ハ前方ニ向ヒ其下面ニ於テ腔内ヨリ屈曲部ヲ横溝ノ如ク觸ル、モノニシテ子宮ハ多ク小ニシテ硬固ナリ前轉ニテハ子宮体ト頸部トハ一直線ヲナシ稍柔軟ニシテ肥大シ前穹窿部ヲ壓上スレハ膈部ハ稍々下降シテ毫モ体部ト頸部トノ間ニ境界ヲ認メス後轉ニテハ体ノ位置ハ上方或ハ後下方ニ位シ一定セサルニシテ頸部トノ間ニ境界ナク一直線ニアルモノニシテ膈部ハ常ニ前方ニ向ヘリ後屈ニテハ前屈ニ於ケル如ク急頓ニ屈曲スルコトナケレト同シク体ノ下部ニテ横溝ヲ認定シ得ルモノニシテ底部ハ著シク肥大スルコト多シ觸診ノ際注意スヘキハ炎症及癒着ノ有無ナリ壓迫ニ由テ疼痛ヲ發スレハ炎症アルノ兆ナリ前穹窿部ヲ後上方ニ壓スルカ又ハ後穹窿部ヲ前上方ニ壓シ正復ヲ試ムルモ

動カサルカ或ハ又直ニ舊位ニ復スルコアレハ癒着アルノ徵候ニシテ腔内ニテ十分ニ觸知シ得サルキハ直腸内ヨリ觸診スヘシ

子宮ノ變位變形ハ爲ニ直ニ死ヲ招クコナシト雖モ放置スルキハ便秘、消化不良、頭痛等諸般ノヒステリ―症狀ヲ誘起スヘシ幸ニシテ斯ノ如キ症ヲ發セサル場合ト雖モ不妊ナルカ或ハ流産ハ免レサルモノニシテ産兒ノ樂ミナク終始快々トシテ快樂ノ生活ヲナスコナシ又實ニ子宮脱、腹膜炎其他ノ重患ヲ繼發シ遂ニ不歸ノ客トナルモ亦少ナカラス然レモ從來注意スルモノナクシテ頭痛便秘ノ如キハ恰モ婦人ニ固有常存ノモノ、如ク放念シテ毫モ之ヲ意ニ介セサルモノ多キハ實ニ痛惜ノ至リナリ醫師タルモノ豈ニ之ヲ可憐ノ婦女子ニ勸告セスシテ己ムヘケンヤ

豫防法ハ分娩流産ノ後産褥ノ安靜特ニ流産ハ婦人自ラ

モ之ヲ知ラスシテ經過スルコアレハ慎マサルヘカラス復故作用ノ不全ハ後轉後屈及前轉ノ主因ニシテ而シテ復故不全ハ敢テ分娩後ニ限ラス流産後ニモ均シク之ヲ發スルモノナリ而シテ分娩後ノ慎ムヘキハ——譬ヘ其攝生法ハ誤リアルニモセヨ——之ヲ知レモ流産後ノ攝生ニ至テハ恬トシテ顧ミサルヲ以テ見レハ流産ノ此變位變形ノ主因トナルコトハ蓋シ疑ヒナシ

産褥ノ攝生トハ何ソ流産ニテハ胎兒ノ大小ニ從ヒ二週乃至三週分娩ニテハ五六週間身体及精神ヲ安靜ニシ交接ヲ斷テ尿蓄積、便秘ナカラシメ消化シ易キモノヲ食セシムルニアリ小兒ニハ當初ヨリ授乳スルヲ可トス但シ安靜時ハ敢テ仰臥位置ヲ守ルニ及ハス横臥或ハ坐位ヲ取ルモ可ナレモ金澤ノ慣習ニ依ル處ノ「ヤスマイ」ハ最モ不良ナリトス而シテ分娩後直ニ半坐位置ヲ固守セシムルト腹部ヲ緊壓スルモ又不可ナリ、次テ慎マサル

ベカラサルハ經時ニシテ經時ノ感冒、局部ノ刺戟亦タ
 變位變形ノ素因トナルモノニシテ而シテ經時ノ疼痛、
 出血、過多等アラハ速ニ其治療ヲ施スベシ此他不正位
 置ノ交接、過度ノ房事特ニ陰萎症トノ交接手淫等モ其
 原因トナルモノニシテ排尿及脱糞放屁等ヲ羞チテ之ニ
 堪ユルモ亦不可ナリ上圍ハ人類ノ生理作用ナレハ決シ
 テ秘スヘキモノニアラス安リニ西洋ノ偽開化ヲ摸シテ
 此弊風ヲ學ブベカラズ

變位變形ノ治療ハ器械的ニ正復固定スルノ一法ナレ
 子宮或ハ周圍ニ炎症アルモノニハ此法ヲ行フヘカラサ
 ルノミナラス安リニ行ヘハ却テ其症狀ヲ増悪スルコト
 リ故ニ治療ヲ加フルニ最モ必要ナルハ單純ノ變位變形
 症ナルト合併症ノ存スルモノトヲ定ムルニアリ炎症ア
 レハ之ヲ治シ癒着アレハ之ヲ剝離セサルヘカラス器械
 的ノ正復固定法ハ子宮内及膈内ベツサリウムヲ以テス

ルモノニシテ悉ク之ヲ述ベントスレハ冗長ニ失スルノ
 恐レアレハ茲ニ贅セス (完)